

## 安野発電所への中国人強制連行に関連する フィールドワークに参加して

安芸高田市職員労働組合 自治研推進部 大足 龍利

中国人強制連行の歴史について、これまでの事前学習を通して今回4月16日（土）、実際に現地を歩くフィールドワークに参加できたことを大変うれしく思っています。

まずもって、川原さんをはじめとしまして当日ご案内くださいました方々に感謝申し上げます。

さて、安芸太田町へは久しぶりに行きました。これまで水力発電所のことはまったく目にとめておらず意識もしていませんでしたが、今回改めて安野発電所を意識したなかで送水管が多くみられる山林風景を見ると、この地で起こった歴史を身近に感じずにはいられませんでした。

### 安野発電所

はじめに案内していただいた安野発電所入口に立ったときの見上げた送水管の風景は、写真を見て想像していた以上に大きなものでした。苛酷な労働を文字ではイメージしていましたが、実際の広大な敷地と山肌で作業されている状況を想像すると、重労働はもちろんのこと、衣食住の劣悪な環境が加わり、どんなにたいへんだったことだろうと苦しい思いがしました。

### 「安野 中国人受難之碑」

次に、受難之碑に到着し説明をしていただきました。受難之碑の大きさに驚きましたが、この碑を建立することが被害者や遺族の念願の形だと思うと、石碑からたくさんの方々の強い想いが伝わってきました。また、名前が刻まれた石碑に手を触れました。この名前に触れる被害者や遺族の気持ちを思うと、とても辛く悲しくなりましたが、名前が刻まれていることの意義を川原さんに聞いたときに、生きた証としてこの地に残ることがどんなに重要なことであるか理解できました。

配られた資料に被害者や遺族の感想が掲載されてい

ましたが、気持ちの区切りをつけることができたとなりました。事実を認めその人の存在の証を残すことができて本当によかったと感じます。当然、この建立に至る和解事業までたいへんな道のりであったことは敬意を表するほかありませんが、この石碑が象徴するように、後世に残り歴史を繋ぐ存在として立ち続ける姿は、一連の安野中国人強制連行に関わったすべての方々の宝であり、努力の結晶の証であり、そして中国人と友好を繋ぎとめてくれる場所だと思います。安芸太田町また中国電力ほか、関係者の貴重な財産として大切に管理していつてもらいたいと望みます。

### 貯水槽にて

次に、貯水槽に上がりました。そこで見た導水トンネルというものが、深く大きなものであることに作業の苛酷さを物語っていました。貯水槽から坪野の景色を見ていると、この発電所が稼働していることが中国人のおかげであることをたくさんの人が感謝しなければならないと思います。

### トロッコ

善福寺でトロッコの模型を用いて具体的に説明していただきました。トロッコは知っていましたが、プレ



トロッコの模型を使って説明を聞く

一キの構造や事故がなぜ頻繁に起きていたのか、石を運搬することがどれだけ重労働であったのか、たいへんわかりやすかったです。また、谷キヨコさんの証言のお話はとても印象に残りました。事実を証明する描写や当時の中国人の様子が想像できました。

昼食は境内でいただきましたが、ちょうど天気がよく、風は少し強かったのですが、のどかな景色に悲慘な歴史事実があったことが信じがたい気持ちになりました。

## 収容所跡地を巡って

午後から収容跡地を巡りましたが、津浪、香草、土居のそれぞれの収容所跡地は跡形もなく、教えてもらえなければわかりませんでした。それぐらい月日が流れたということかもしれませんが、こうしたことは語り継いでいかないと何もなくなってしまうことに、歴史を語り継いでいくことの大切さを深く感じました。

香草では栗栖さんに当時の様子を詳しく説明していただきました。そののちも導水トンネル工事現場跡に案内していただき、当時の状況が想像できる地形であったため、トロッコ事故の様子がよくわかりました。



香草収容所跡で栗栖さんの証言を聞く

実際に当時の様子を見られていた証言であったため想像しながら聞くことができました。栗栖さんが証言された香草での様子は、収容所と言っているのか倉庫と言った方がいいのか、その劣悪な住環境に耐えるしかなかった現実をその当時は受け入れるほかなかったと考えていいのかどうか悩むところでした。戦時中の様子は

私たちには想像できません。当時の方々がどのように考えていたかはわかりませんが、そうして生きてこられた現実があったと受け止めるしかありませんでした。

## 土居取水口にて

最後に土居の取水口に案内いただきました。通常では入れないので貴重な体験になりました。中国電力の方から詳しく説明いただいたので、取水口の重要性が理解できました。この取水口からこれまで見てきた経路を考えると、約8キロの導水トンネルと言っても、想像を絶する当時の作業に恐ろしくなりました。しかし、こうした作業があったからこそ、今私たちが電力を使わせてもらっているのだから、歴史事実を知っておかなければならないと思いました。

## 学んだことを伝えたい

当然、中国強制連行の歴史事実は許されるものではありません。反省と償いは必要です。それは川原さんたちの懸命な取り組みによって、一定の区切りができ現在の友好関係に繋がっていると考えます。

その尊い互いの理解する気持ちをこれから生きていく子どもたちに知っておいてほしいと心底思いました。

今回のフィールドワークは、以前和解までの道のりを教授いただきましたが、それ以前の背景がとてもよくわかりました。私たちが幸運だったのは、こうして前回と今回の約2日の日程で中国人強制連行の歴史事実に触れることができたことで理解が深まったことです。

学んだことは職場の仲間や子どもたちに伝えていこうと考えています。微力ながら川原さんの歴史事実を継承する会の一助の末端としてお役に立てることができれば幸いです。

おわりに、本当にお忙しいなかを私たちのために現地へ赴きご案内くださったこと、またこれまでも私たちの依頼に対して快く対応いただきましたことに重ねて感謝申し上げます。